

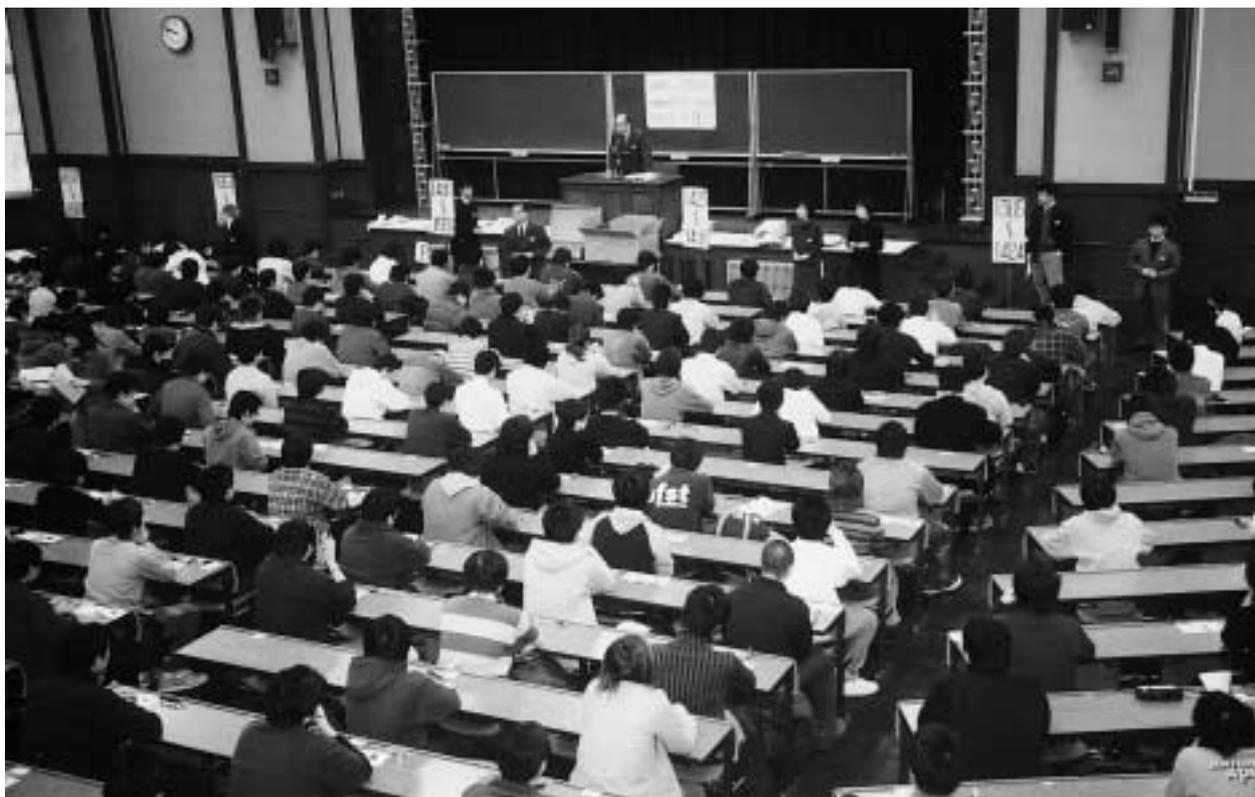


学内広報



2003. 2. 13
東京大学広報委員会

平成15年度大学入試センター試験終わる



(3 ページに関連記事)

目次

一般ニュース	2
評議会（1月21日（火））承認事項・報告事項、平成15年度大学入試センター試験終わる、平成15年度外国学校卒業学生特別選考の願書受付終わる、博士の学位取得者にもガウン着用	
部局ニュース	4
退官教官の最終講義、小柴昌俊名誉教授ノーベル賞受賞記念「ニュートリノ」展の内覧会・レセプション、小柴名誉教授ノーベル物理学賞受賞記念に「学問の木」を植樹、大学院理学系研究科・理学部教職員と留学生・外国人研究員との懇談会、駒場で留学生懇談会開かれる、ナノエレクトロニクス連携研究センター発足記念シンポジウムを開催	

掲示板	9
AGS年次総会及びWSC—SD年次総会への参加募集案内、総合図書館備付け図書のおすすめについて、保健センター業務日程の変更について、近藤次郎東京大学名誉教授文化勲章受章記念講演会のお知らせ、「教養学部報」第463（2月5日）号の発行—教官による、学生のための学内新聞—、平成16年度新領域創成科学研究科大学院入試速報、「学術期刊データベース」のサービス開始について	
訃報 （笛木和雄名誉教授、奥野忠一元教授、野崎義行教授）	12
事務連絡 （人事異動（教官、事務官））	14
広報委員会	15
淡青評論 「診療ができない獣医師たち」	16

≡ 一般ニュース ≡

評議会（1月21日（火））承認事項

学生の休学の基準の一部改正

学生の休学の事由で、学部長又は研究科委員会委員長等が許可することのできるものとして、出産又は育児、介護、社会に貢献する活動を加えるため、所要の改正が行われた。

附 則

この規則は、平成15年1月21日から施行する。

評議会（1月21日（火））報告事項

東京大学における名誉博士以外の博士の式服に関する申合せ

学研合同会議
2003年1月20日

「東京大学の式服に関する了解事項」（2002. 10. 21学研合同会議）の2(5)及び3(2)に基づき、東京大学における名誉博士以外の博士の式服について以下のとおり申し合わせる。

1. 式服は、専攻分野にかかわらず同一の形式とする。
2. 式服の基本色は、黒からなりフードの一部に淡青色を用いる。
3. 式服の一部に専攻を識別する分野別の色を用いることとし、色は別表のとおり定める。
4. 式服の着用については、希望する者の負担において行う。

[別 表]

文学	白色
心理学	クリーム
社会学	クリーム
社会心理学	クリーム
社会情報学	クリーム
教育学	ライトブルー
法学	ワインレッド
経済学	銅色
学術	銀色
理学	金色
工学	代赭色
農学	薄紫色
獣医学	グレー
医学	緑色
保健学	緑色
薬学	オリーブ・グリーン
数理科学	黄色
科学	瑠璃色
生命科学	瑠璃色

環境学	瑠璃色
国際協力学	瑠璃色
情報理工学	山吹色
学際情報学	ピンク

[参 考]

東京大学の式服に関する了解事項

学研合同会議
2002年10月21日

1. 式服制定の趣旨

東京大学の式服を制定する趣旨は、まず第1に、国際化が進む中で、東京大学も国際的なマナーとしてしるべき式服を整える必要があること、第2に、法人化を機に東京大学メンバーのアイデンティティを表現、涵養する上で、式服は積極的な意味をもつことにある。この趣旨に基づき、東京大学の公式行事においては、以下に定める式服を着用することとする。

2. 式服の種類と形式

- (1) 東京大学としては、総長、副学長、部局長（研究科長・研究所長・事務局長など）、名誉博士及び博士、計5種類の式服を制定する。
- (2) 式服は、ガウンと帽子及びフードからなる。
- (3) 部局長の式服は、部局や研究の専門分野にかかわらず、職務上のものとして同一の形式とする。
- (4) 名誉博士の式服は、名誉博士の称号が専門領域ごとに授与されるものではないので、同一の形式とする。
- (5) 名誉博士以外の博士については、別途定める。
- (6) 式服のデザイン及び使用する色については、別表のとおりとする。

3. 管理と着用

- (1) 総長、副学長、部局長及び名誉博士の式服は、すべて大学本部で購入・保管する。
- (2) 名誉博士以外の博士については、別途定める。

4. その他

東京大学以外で博士号を取得したこと等により他の式服を有する部局長は、その式服を着用することができる。（以下略）

平成15年度大学入試センター試験終わる 一本学は7試験場198試験室でー

平成15年度大学入試センター試験は、1月18日(土)、19日(日)の両日にわたって実施された。

全国の志願者数は602,887人で、国公立大学(167校)及び大学入試センター試験に参加した私立大学(351校)で一斉に行われた。

本学では、11,120人の志願者が、本郷・駒場の両キャンパスと都立高等学校1校(白鷗)・私立高等学校4校(富士見丘、海城、共立女子、開成)の7試験場198試験室で受験した。第1日目の「外国語」では、9,953人が受験し、志願者総数に対する受験率は89.5%(前年度90.5%)であった。

【第2種】

アメリカ	46人	カナダ	1人
イギリス	10人	オランダ	1人
ドイツ	6人	ブラジル	1人
中国	5人	イタリア	1人
シンガポール	4人	マレーシア	1人
オーストラリア	3人	パキスタン	1人
フランス	3人	チリ	1人
ニュージーランド	2人	台湾	1人
スペイン	2人	ベネズエラ	1人
スイス	2人	韓国	1人
タイ	2人	トルコ	1人
ベルギー	2人	オーストリア	1人
フィリピン	2人	ルクセンブルク	1人

(合計) 102人

平成15年度外国学校卒業学生特別選考の願書受付終わる

平成15年度外国学校卒業学生特別選考の願書受付は、第1種が12月11日(水)、第2種が11月14日(木)に締め切られた。

志願者は、第1種(外国人)111人、第2種(日本人)102人、合計213人で前年度より14人減であった。

今後は、書類審査による第1次選考を行い、その合格者には2月25日(火)から第2次選考を実施する。

平成15年度外国学校卒業学生特別選考願書受付数

種別 科類	第1種		第2種		合計	
	平成15年度	平成14年度	平成15年度	平成14年度	平成15年度	平成14年度
文科一類	7件	5件	20件	27件	27件	32件
文科二類	35	30	15	23	50	53
文科三類	9	17	32	26	41	43
理科一類	43	54	15	19	58	73
理科二類	13	11	12	9	25	20
理科三類	4	0	8	6	12	6
合計	111	117	102	110	213	227

なお、志願者の種別の人数、国籍等(第1種)及び修学先の所在国名等(第2種)の内訳は、次のとおりである。

【第1種】(国・地域)

中国	86人
韓国	18人
インドネシア	2人
マレーシア	2人
イギリス	1人
台湾	1人
ベトナム	1人

(合計) 111人

博士の学位取得者にもガウン着用

このたび東京大学では、入学式、卒業式、学位記授与式等の式典において、総長、副学長及び部局長が列席の際に、式服(ガウン)を着用することになった。

また、本学において博士の学位を取得し、学位記授与式に参列する学生等にも、式服(ガウン)を着用することができるようになったもの。

今年度については実施初年度ということもあり300着限定となるが、3月に実施される学位記授与式に参列する学生等に優先して、販売又はレンタルにて提供することとなった。

希望する方は、各研究科の大学院(担当)掛の予約申込表に購入又はレンタルを明示のうえ申し込むこととなる。

なお、全学的に購入希望が多い場合には、購入希望者を優先することとなる。

ガウンの申し込み方法、支払、引渡し等の詳細についての問い合わせは、各研究科大学院担当掛又は学生部学生課総務掛(内線22506)まで。

(学生部)

≡ 部局ニュース ≡

退官教官の最終講義

このたび、本学を退官される方々の最終講義・講演等の日程と題目をお知らせいたします。

大学院工学系研究科・工学部

菅原 進一 教授 2月28日(金)14:00~17:00
(建築学専攻) 弥生講堂
「防災・材料との語らい」

藤田 和男 教授 3月3日(月)15:00~16:30
(地球システム工学専攻) 総合研究博物館
「石油と共に40年」

小谷 俊介 教授 3月4日(火)15:00~17:00
(建築学専攻) 工学部1号館15号教室
「建築耐震構造—これまでの発展と将来展望—」

藤嶋 昭 教授 3月4日(火)15:00~17:00
(応用化学専攻) 工学部5号館51講義室
「感動した光機能界面」

山脇 道夫 教授 3月5日(水)15:00~17:00
(システム量子工学専攻) 工学部11号館講堂
「材料—燃料—量子エネルギーを求めて—却火を光明に変えんことを願いつつ—」

西 敏夫 教授 3月6日(木)15:00~16:30
(理工学専攻) 工学部6号館63号講義室
「ソフトとハードの物理」

稲田 紘 教授 3月7日(金)16:00~17:30
(精密機械工学専攻) 工学部11号館講堂
「医用生体工学・医療情報学研究をふりかえって—私の歩んできた道—」

内野倉國光 教授 3月10日(木)15:00~16:30
(理工学専攻) 工学部6号館63号講義室
「低次元スピン系の物理」

幸田清一郎 教授 3月11日(火)15:00~17:00
(化学システム工学専攻) 工学部5号館51号講義室
「酸素と水の分子反応工学」

鈴木 篤之 教授 3月11日(火)17:30~18:30
(システム量子工学専攻) 山上会館大会議室
「核燃料サイクルに学ぶ」

久保田弘敏 教授 3月17日(月)15:00~17:00
(航空宇宙工学専攻) 工学部7号館73号講義室
「航空宇宙空気力学研究での25年」

大学院人文社会系研究科・文学部

池田 知久 教授 2月21日(金)14:00~
(中国思想文化学) 文学部1番大教室
「郭店楚簡『老子』諸章の上段・中段・下段—『老子』のテキスト形成史の中で—」

大学院理学系研究科・理学部

小間 篤 教授 3月14日(金)14:00~16:00
(化学専攻・化学科) 化学本館5階講堂
「物質科学に魅せられて」

長澤 信方 教授 3月7日(金)15:30~16:45
(物理学専攻・物理学科) 理学部4号館1220号室
「励起子系のボース・アインシュタイン凝縮」

木村 賛 教授 3月18日(木)15:30~17:00
(生物科学専攻・生物学科) 理学部2号館講堂
「歩行の系統発達と個体発達」

大学院農学生命科学研究科・農学部

岡本 嗣男 教授 3月24日(月)15:00~16:30
(生物・環境工学専攻) 農学部7号館A棟114、115号室
「農業機械の自動化と農業ロボット」

大塚 治城 教授 3月18日(火)13:30~14:30
(農学国際専攻) 農学部1号館8番教室
「自然免疫に関する考察」

森 敏 教授 2月28日(金)15:00~16:30
(応用生命化学専攻) 農学部2号館第1講義室
「植物の必須元素の流れを追って」

尾鍋 史彦 教授 3月7日(金)16:00~17:30
(生物材料科学専攻) 弥生講堂一条ホール
「紙メディアの将来」

唐木 英明 教授 3月18日(火)15:00~16:30
(獣医学専攻) 農学部1号館8番教室
「カルシウム 40億年の謎」

太田 猛彦 教授 3月14日(金)15:00~17:00
 (農学国際専攻) 弥生講堂一条ホール
 「森林理水及び砂防工学/国際森林環境学の視点から見た『森林の役割り』」

生産技術研究所第一会議室
 「LES、PIVと流れのデザイン」

虫明 功臣 教授 3月20日(木)14:30~16:40
 生産技術研究所第一会議室
 「水循環と水資源-ローカルからグローバルへの展開」

有馬 孝禮 教授 3月12日(水)15:00~16:30
 (生物材料科学専攻) 農学部7号館A棟104-105
 「木材の住科学-かわることとかわらぬもの-」

先端経済工学研究センター

児玉 文雄 教授 3月12日(水)16:00~
 先端科学技術研究センター13号館3階会議室
 「私の研究遍歴:30年」

上野川修一 教授 3月7日(金)15:00~16:30
 (応用生命化学専攻) 農学部2号館化学第1講義室
 「食品免疫学研究-アレルギーから腸管免疫まで」

大森 俊雄 教授・生物生産工学研究センター長
 (生物制御工学部門) 3月14日(金)15:00~17:00
 農学部2号館化学第一講義室
 「環境汚染物質の生分解機構の解明とバイオレメディエーション」

大学院総合文化研究科・教養学部

菊地一雄 教授 3月15日(土)13:10~14:10
 (広域科学専攻) 教養学部数理科学科建物(矢内原公園横)大講義室
 「電気光学とイオンの霞」

小林 啓二 教授 3月15日(土)14:10~15:10
 (広域科学専攻) 教養学部数理科学科建物(矢内原公園横)大講義室
 「固体有機化学-物性から反応まで」

高野穆一郎 教授 3月15日(土)15:30~16:30
 (広域科学専攻) 教養学部数理科学科建物(矢内原公園横)大講義室
 「私の歩いたフィールド-水が造るさまざまな環境-」

林 利彦 教授 3月15日(土)16:30~17:30
 (広域科学専攻) 教養学部数理科学科建物(矢内原公園横)大講義室
 「コラーゲンタンパク質の性質と生体材料としての開発の可能性」

生産技術研究所

吉識 晴夫 教授 3月18日(火)16:00~17:30
 生産技術研究所第一会議室
 「ガスタービンと共に」

小林 敏雄 教授 3月19日(水)15:20~17:00

小柴昌俊名誉教授ノーベル賞受賞記念「ニュートリノ」展の内覧会・レセプション

平成15年1月15日(水)、総合研究博物館で小柴昌俊名誉教授ノーベル賞受賞記念「ニュートリノ」展の内覧会・レセプションが行われた。

小柴名誉教授も訪れて、展示を担当した田賀井篤平総合研究博物館教授の説明を聞きながら、ニュートリノ研究の足跡を見て回った。

会場には超新星爆発で発生したニュートリノを検出した当時の実験ノートや、直径50センチの光電子増倍管の実物、ノーベル賞メダルのレプリカ等が展示されている。

多くの記者に囲まれながら展示を見終えた小柴名誉教授は、懐かしそうに当時の思い出を語っていた。

会期：平成15年1月16日(木)～6月20日(金)

(ただし、特別展示として土日祝日に開館、月に閉館するのは1月16日(木)～4月20日(日)。4月22日(火)以降は月～金に開館しています。2月23日(日)はメンテナンス、2月25・26日は入学試験のため臨時閉館です。2月24日(月)は開館しています)

開館時間：午前10時～午後5時(入館は4時30分まで)

会場：東京大学総合研究博物館新館

主催：総合研究博物館、大学院理学系研究科、宇宙線研究所

入場料：無料

ハローダイヤル：03-5777-8600

URL：<http://www.um.u-tokyo.ac.jp>



展示の説明を受ける小柴教授
(総合研究博物館)

小柴名誉教授ノーベル物理学賞受賞記念「学問の木」を植樹

1月16日(木)午後、ノーベル物理学賞を受賞した小柴昌俊名誉教授が、理学部1号館正面玄関前の広場で受賞を記念して「カイノキ(楷の木; Pistacia chinensis Bunge)」を植樹された。

式典は、小柴名誉教授御夫妻、佐々木総長、各部局長、事務局長をはじめ多数の教職員が参列し、佐藤理学系研究科長の司会により、佐々木総長のあいさつのもと、小柴先生の記念植樹が行われた。式典後、「カイノキ」をバックに関係者一同の記念撮影が行われるなど、和やかな中で式典は終了した。

ちなみに、「カイノキ」は高さ30メートルに達するウルシ科の高木で、中国・台湾・フィリピンに分布する。初夏に黄緑色の花を咲かせ、秋には紅葉が美しい。また、中国山東省曲阜の孔林には、孔子の高弟、子貢が植えたカイノキが代々植え継がれ、孔子の墓所を覆っている。この木は、その孔子廟のカイノキの種子から育成したものである。

カイノキは儒学ゆかりの木として、科挙の進士に合格したものにはこの樹で作った笏(しゃく)を与えたという。いわば「学問の木」である。



「カイノキ」を植樹される小柴名誉教授



小柴名誉教授御夫妻を囲んで記念撮影
(大学院理学系研究科・理学部)

大学院理学系研究科・理学部教職員と留学生・外国人研究員との懇談会

去る1月27日(月)午後6時から山上会館1階談話ホールにおいて大学院理学系研究科・理学部の教職員と留学生・外国人研究員との懇談会が開催された。あいにく雨模様の天気であったにもかかわらず留学生・客員研究員とその家族、チューターの日本人学生、教職員、合わせて70名余りの参加者があった。会は佐藤勝彦理学系研究科長・理学部長の英語による歓迎の挨拶に始まり、ゲラー国際交流委員会委員長の乾杯の音頭の後、料理や飲み物を手に懇談が始められた。

会半ばに毎年留学生のために手作りのカードをボランティアで作ってくださっている研究協力掛の小澤みどりさんの紹介と挨拶があり、続いて留学生のスピーチが行われた。化学専攻の博士1年ムハンマドゥ・アワイスさん(パキスタン、男性)は日本について感じたことや1月に日本で生まれたばかりの娘さんに日本語名も付けたことについて話をし、生物化学科の学部3年チュウ・ウェイさん(中国、女性)は日本に留学してからこれまでに人との良い出会いに恵まれ感謝していること、これからも勉強に励んでいきたいことについて大変流暢な日本語で話しをした。留学生によるスピーチの間に普段忙しい研究生活で疲れている参加者を癒すため、地球惑星

科学専攻の博士1年バク・ジソンさん(韓国、女性)、化学専攻の修士1年リ・ケンフンさん(中国、女性)、一杉太郎さん(日本、男性)、国際交流室の筆内(衣装担当兼総監督)、五所の5名によるハワイアンダンスが披露された。今回のダンスは急な結成であったにも関わらず、留学生と普段チューターとして留学生がお世話になっている一杉さんのご協力もあり、その美しい動きに会場は拍手喝采であった。

会の終わりに参加者全員でジョンレノンの「イマジン」の合唱、地球惑星科学専攻のゲラー教授による閉会の辞があり、全員で記念写真の撮影の後、午後8時に盛況のうちに閉会した。年に一度のこの懇親会は日々研究中心の生活を送る客員研究員と留学生にとってほんのひと時ではあるが研究から離れ、教職員との交流を深められる良い機会となったようである。

(大学院理学系研究科・理学部 国際交流室)

駒場で留学生懇談会開かれる

さる12月18日(水)午後6時から、生協食堂2階にて「平成14年度総合文化研究科長・教養学部長ならびに数理科学研究科長と外国人留学生との懇談会」が開催された。

この催しは駒場キャンパスの教職員と、駒場で学ぶ留学生とが懇談を通じて、互いに理解を深めあうことを目的として毎年開かれているものである。今回も留学生と教職員、それに来賓の方々を加えて約170名の出席があり、盛会であった。

浦雅春教養学部留学生委員会委員長の開会の辞のあと、主催者である古田元夫総合文化研究科長・教養学部長と薩摩順吉数理科学研究科長が挨拶し、来賓の飯塚堯介留学生センター長、霜田浩二留学生課長の紹介と挨拶があった。続いて留学生相談室教官と留学生掛のスタッフが紹介されたのち、木畑洋一評議員の発声で乾杯、懇談がにぎやかにはじまった。

駒場には学部1年生から博士課程学生まで、専攻もさまざまに異なる留学生が集い、学んでいる。この日はそうした学生たちが一堂に会する数少ない機会であり、留



安らぎのひととき



全員で記念撮影



懇談会出席者による記念撮影

学生同士、教職員も交えた交歓の輪が幾重にも広がっていた。

途中、張悦さんら中国人学部留学生有志8名が中国の歌を合唱し、また短期交換留学制度（AIKOM）の学生ティティック・フィラワティさん（インドネシア）は優美な衣装を身にまとい民族舞踊を披露して、それぞれ喝采を博した。

会はなごやかな雰囲気の中に、鈴木賢次郎評議員の閉会の辞をもって午後8時に閉会した。

（大学院総合文化研究科・教養学部）

ナノエレクトロニクス連携研究センター発足記念シンポジウムを開催

生産技術研究所及び先端科学技術研究センターではナノエレクトロニクス連携研究センター（NCRC）の発足を記念して、去る平成14年11月26日（火）こまばエミナースにおいて“ナノテクノロジーが開く次世代情報通信素子技術基盤”と題してシンポジウムを開催した。定員400名のダイヤモンドルームに満席の参加者が集まり、成功裏に終了した。

前半は、先端科学技術研究センター南谷崇センター長の開会挨拶に続いて、文部科学省坂田東一官房審議官か

ら、産学官連携に期待する旨の来賓挨拶を頂き、荒川泰彦NCRCセンター長からは、光・電子デバイス技術の開発プロジェクトを中心に今後の研究展開についての説明、さらに、スタンフォード大学の山本喜久教授からは、量子情報通信に向けたナノデバイスの展開、ヴェルツブルグ大学アルフレッド・フォーシェル教授からは、量子ドットレーザーの展望についての話があった。

後半は、生産技術研究所榊裕之教授がナノ電子デバイスの過去から将来への展望、京都大学野田進教授がフォトリック結晶デバイスの展望について話され、富士通研究所中村哲夫常務取締役が産業界からの期待として、将来のブレークスルー技術に向けた産学官の連携の重要性が強調された。最後に、生産技術研究所西尾茂文所長から閉会の挨拶があった。

今回のシンポジウムに、大学研究者や企業研究者のみならず、関係企業の研究開発部門のトップの方々や、文部科学省、経済産業省、新エネルギー・産業技術総合開発機構からも参加をいただいたことは、この分野の研究開発を産学官の連携のもとで推進することへの期待が、きわめて大きいことを示すものである。今後、駒場Ⅱキャンパスをナノエレクトロニクス分野における世界の研究開発拠点として発展させていく所存であり、ご支援をお願いしたい。

（生産技術研究所）



会場の様子（講演に聞き入る満員の聴衆）



来賓挨拶をされる文部科学省坂田官房審議官

≡ 掲 示 板 ≡

AGS年次総会及びWSC-SD年次総会への参加募集案内

東京大学では、マサチューセッツ工科大学、スイス連邦工科大学、及びスウェーデンのチャルマーズ工科大学と共に、環境保全を図りつつ地球規模での持続的発展を求める国際学術協力、AGS (Alliance for Global Sustainability) 活動を推進しております。

AGSでは毎年年次総会を実施しておりますが、2003年のAGSの年次総会は東京大学が担当することになり、3月23日から26日にかけて本学で開催されます。

一方、AGSでは大学院生を中心としたWorld Student Community for Sustainable Development (WSC-SD) が昨年設立され、現在、本学のStudent Community (UTSC) もその中心となって、活発な活動を展開しております。大学院生、及び学部学生を対象としたWSC-SD年次総会も、AGS年次総会開催に先立って3月19日から22日に開催されます。

AGSの活動にご関心をお持ちで、AGS年次総会、WSC-SD年次総会への参加を希望される方は、下記のホームページに掲載されている年次総会の案内をご参照の上、お申込みください。

ホームページ：

<http://ags.esc.u-tokyo.ac.jp/am2003/>

(AGS年次総会参加登録ページ)

<http://ags.esc.u-tokyo.ac.jp/utsc/> (UTSCホーム)

<http://www.wscsd.org/> (WSC-SDホーム)

<http://wscsd.org/activities/am2003/>

(WSC-SD年次総会ページ)

問合せ先：

AGS年次総会関係：浅尾 (AGS事務局)

asao@esc.u-tokyo.ac.jp 内線27937

WSC-SD関係：UTSC運営委員会

students-core@ags.esc.u-tokyo.ac.jp

総合図書館備付け図書の推薦について

総合図書館では、学生の学習・研究を助け、教養をより豊かにするために、全学の教官 (常勤講師以上) から図書を推薦していただく制度を設けております。

つきましては、平成15年度夏学期授業に向けて下記のとおり図書の推薦をお願いいたします。

記

1. 取りまとめ窓口 各部局図書館 (室)

2. 推薦期限 平成15年2月28日 (金)

なお、その他の図書の推薦は常時受け付けます。

3. 推薦方法 総合図書館備付け図書推薦要領による。
(附属図書館)

保健センター業務日程の変更について

春季休業および新入生・留学生健診に伴い、下記の期間、診療等の業務を一時中止いたします。

本郷支所 平成15年3月10日 (月) から

平成15年4月4日 (金) まで

駒場支所 平成15年3月17日 (月) から

平成15年4月8日 (火) まで

柏健康相談室 平成15年3月10日 (月) から

平成15年4月4日 (金) まで

(保健センター)

近藤次郎東京大学名誉教授文化勲章受章記念講演会のお知らせ

記

日 時：2003年3月10日 (月)

15:00~16:30 (開場14:00)

場 所：安田講堂

主 催：大学院工学系研究科・工学部

演 題：今年の桜はいつ頃か～予測理論の発展～

内 容：1. 数値天気予報

2. 100年後の地球環境

3. 地球シミュレータ

4. YS-11の開発

5. 今年の景気はどうなるか

お申し込み方法：住所、氏名、年齢、ご職業、ご連絡先
をご記入の上、メールかFAXを送信

① 電子メール (tmunak@mail.ecc.u-tokyo.ac.jp)

② FAX (03-5841-8561)

参加費：無料

以上

お問い合わせ先

近藤次郎先生文化勲章受章お祝いの会事務局

宗像敏子

大学院工学系研究科

航空宇宙工学専攻

TEL: 03-5841-6603

「教養学部報」第463 (2月5日) 号の発行

——教官による、学生のための学内新聞——

田中 純：「イメージの形態学」へ向けて——

アビ・ヴァールブルク研究からの旅

瀬地山角：保育所が生まれ変わります

相澤 隆：中世史家と現代

高田康成：往年の名調子再び

本間長世先生、小田島雄志先生、両名誉教授
文化功労者顕彰記念講演会

菅原克也：比較文学比較文化フォーラム

「近代文学と『恋愛』」

〈本の棚〉

- 黒住 真：山脇直司著『経済の倫理学 現代社会の倫理を考へる8』経済を人間的生と結びつける学を構想する
- 内田隆三：松原隆一郎著『失われた景観——戦後日本が築いたもの』経済と人間の交わるどころ

〈私のいち押し〉

- 義江彰夫：LPレコードの魅力
- 菊地文雄：計算道具
- 三谷 博：みなもと太郎『風雲児たち』リイド社
- 「教養学部報」は、教養学部の正門傍、掲示板前、学生課ロビー、生協書籍部、保健センター駒場支所で無料配布しています。バックナンバーもあります。
- (大学院総合文化研究科・教養学部)

平成16年度新領域創成科学研究科大学院入試速報！

平成16年度新領域創成科学研究科大学院入試は、下記のとおり実施いたします。

(詳細は、4月1日配付開始の学生募集要項・専攻入試案内書で確認して下さい。)

新領域創成科学研究科入試日程

2003/4/1	学生募集要項・専攻入試案内書配付開始
2003/6/9～13	特別口述試験願書受付期間
2003/7/1～7	願書受付期間
2003/8/7～9/9	試験期間(各専攻・コースにより日程が異なります)
2003/9/19	合格発表(医学部1号館)
2003/12/8～12	博士後期課程及び博士後期課程社会人特別選抜願書受付期間 (試験実施専攻・コースは、募集要項で確認)
2004/2	博士後期課程2次試験期間
2004/3/5	博士後期課程合格発表
2004/3/17～19	入学手続期間

問合せ先

専攻・コース	入試担当者	メールアドレス
物質系	月橋 文孝教授	tukihasi@k.u-tokyo.ac.jp
先端エネルギー工学	大崎 博之助教授	ohsaki@k.u-tokyo.ac.jp
基盤情報学	伊庭 斉志助教授	iba@iv.t.u-tokyo.ac.jp
複雑理工学	小屋口剛博助教授	tak@eri.u-tokyo.ac.jp
先端生命科学	永田 昌男教授	nagata@k.u-tokyo.ac.jp
環境学・自然環境コース	福田 健二助教授	fukuda@k.u-tokyo.ac.jp
環境学・環境システムコース	松橋 隆治助教授	matu@globalenv.t.u-tokyo.ac.jp
環境学・人間人工環境コース	渡邊 浩志講師 佐々木 健助教授	nabe@k.u-tokyo.ac.jp ksasaki@k.u-tokyo.ac.jp
環境学・社会文化環境コース	佐久間哲哉助教授	sakuma@k.u-tokyo.ac.jp
環境学・国際環境協力コース	小沢 一雅助教授	ozawa@k.u-tokyo.ac.jp
情報生命科学	森下 真一助教授	moris@k.u-tokyo.ac.jp

新領域創成科学研究科教務掛 gakumu@k.u-tokyo.ac.jp

新領域創成科学研究科HP <http://www.k.u-tokyo.ac.jp/>

「学術期刊データベース」のサービス開始について

社会科学研究所図書室は2003年1月より「学術期刊データベース」のサービスを開始しました。学術期刊データベースは、中国の学術雑誌（5300タイトル）の全文情報を収録したデータベースです。学内の中国分野の研究者をはじめ留学生にも広く利用されることを期待しています。URLは以下の通りです。

<http://library.iss.u-tokyo.ac.jp/chinadb/>



(社会科学研究所図書室)

≡ 訃報 ≡

笛木 和雄 名誉教授

名誉教授笛木和雄先生は、昨年12月27日早朝にご病気のため突然ご逝去されました。先生は、昭和27年9月に東京大学工学部応用化学科を卒業後、引き続き大学院工学部応用化学科に進学、昭和31年3月に同大学院を中退し、直ちに工学部講師に就任されました。



昭和34年10月には助教に昇任、昭和47年3月に東京大学工学部教授に就任して合成工業材料講座、工業化学第2講座、工業化学第3講座の担任を歴任されました。東京大学学内にあっては、総長補佐、工学部評議員、大学協議会委員、宇宙航空研究所跡地利用特別委員、キャンパス委員会新キャンパス特別委員などを務められました。また東京大学退官後は、東京理科大学理工学部にて教授として奉職されました。

笛木先生のお仕事は、主にエネルギーや半導体などに関連する固体材料全般の分野に及び、工業物理化学、応用電気化学、エネルギー材料化学、固体欠陥化学、超伝

導材料化学などの観点から広範な研究を行い、ライフワークとして固体物理化学の学問体系の確立に努められました。学外においても、電気化学会の会長を務められたのをはじめとして、固体イオニクス学会や化学センサー研究会の設立などを通じて学界を指導されるとともに、さまざまな専門委員会委員などを通じて、わが国の科学技術行政にも多大な貢献をされました。これらの業績に対して、笛木先生は、電気化学会武井賞（論文賞）、日本化学会賞、日本セラミックス大賞、勲3等瑞宝章を授章されました。

先生は、何事にも真摯な方で、研究と教育のうえでは自分自身に大変厳しい先生でしたが、誰に対しても分け隔てなく慈愛に満ちた態度で接して下さり、幅広い識見と将来への鋭い洞察力、誠実な人柄をもって学生および後進の教育指導にご尽力して頂きました。

笛木和雄先生の突然の御逝去の報に接し悲痛の極みではありますが、ここに一同謹んで哀悼の意を表し、御冥福をお祈り申し上げます。

(大学院工学系研究科・工学部)

奥野 忠一 元教授

奥野忠一先生は、平成14年12月24日（火）に逝去されました。享年81歳でした。告別式は12月27日（金）信濃町千日谷会堂にてしめやかに執り行われ、奥野先生を偲んで多数の方々が見参されました。先生は永年にわたって統計学、特に実験計画法や品質管理の分野の研究教育に専念され、多くの優れた研究業績をあげられるとともに、すぐれた後進を育てられました。農事試験と品質管理への貢献でデミング賞本賞を1969年に受賞されました。また統計学全般への功績により1999年には勲三等瑞宝章を受章されました。



先生は1922年大阪船場に生まれました。海外での体験や海外学者との交流をまとめた最後の著書「船場の子、世界を歩く」のタイトルはこれにちなんでおります。他界される直前これを校了されました。

大阪高等学校を卒業後、東京大学の数学科に進まれました。東大数学科の副手を経て1946年に農林省農業技術研究所（現在の農業環境技術研究所）物理統計部に奉職されました。奥野先生はランダムサンプリングとランダム化実験の方法論を日本の農業研究に導入し、イネ・果

樹などの農事試験へ応用されました。実験計画法の普及のため全国の農事試験場をまわって指導にあたられ、技術者として大変充実した時期をすごされました。

1975年には、東京大学計数工学科に職を移されました。その後1983年に退官されるまで、統計学の理論と応用に関する広い知見と温かい人柄により、多くの優れた後進を育てられました。東京大学退官後は東京理科大学経営工学科に職を移されました。

奥野先生の業績は、農業にはじまり、官庁統計・工業の品質管理・マーケティングなどにひろがるものがあります。統計審議会の委員を1982年から12年勤められました。国際標準化機構ISOの技術部会でも20年以上活躍されました。また、海外との学術交流においては、国際学会に積極的に参加され日本の代表とみなされておられました。これが1984年の日本で初めての国際計量生物学会議IBC、1987年の国際統計学会ISIの誘致につながり、奥野先生は両大会の実務運営の責任者としての重責を果たされました。

奥野先生のご逝去は誠に痛惜の念に堪えません。ここに謹んで、哀悼の意を表し、奥野忠一先生のご冥福をお祈り申し上げます。

(大学院工学系研究科・工学部)

野崎 義行 教授

東京大学海洋研究所海洋化学部門海洋無機化学分野教授野崎義行先生は平成15年1月4日、病気のため急逝されました。享年56歳でした。

先生は1974年に北海道大学水産学部において学位を取得後、米国のイエール大学地質・地球物理学部、ウッズホール海洋研究所において研究に従事され、1979年、東京大学海洋研究所海洋無機化学部門助教授に任命され、併せて東京大学大学院理学系研究科担当教官となりました。1992年1月、同部門教授に昇任、2000年4月、海洋研究所の改組により海洋化学部門海洋無機化学分野に配置換えとなりました。

先生は、一貫して海洋地球化学分野において世界に先駆けた多くの優れた研究成果を上げ続け、日本の海洋地



球化学を牽引する存在でありました。海洋地球化学分野において天然放射性核種による時間スケールを取り入れ、水塊のトレーサーとして希土類元素の存在比変化を用いるなど、世界に先駆けた分析法や解析手法を用いて海洋物質循環の解明に大きく寄与しました。その功績は1977年に日本海洋学会岡田賞、1998年に日本海洋学会賞、2001年に日本地球化学会学会賞を受賞されたことから広く認められていました。さらに、海洋と地球環境の科学の啓蒙活動として出版された「地球温暖化と海」(1994年、東大出版会)は現在も多くの学生や研究者に高い評価を受けております。また海水の元素組成の鉛直分布を周期律表としてまとめられたものは、世界中で海洋研究教育に広く用いられています。

世界の研究者から常に注目され、日本の海洋地球化学のリーダーであった先生を突然失ったことは、痛惜の念に耐えません。謹んでご冥福をお祈りいたします。

(海洋研究所)

≡ 事務連絡 ≡

人 事 異 動 (教 官)

発令年月日	氏 名	異動内容 (新官職)	旧 (現) 官職等
		(死 亡)	
	上 村 勝 彦	平成15年1月24日 死亡	東洋文化研究所教授
	野 崎 義 行	平成15年1月4日 死亡	海洋研究所教授
		(昇 任)	
15. 1. 16	幾 原 雄 一	大学院工学系研究科教授	工学部附属総合試験所助教授
〃	金 子 成 彦	大学院工学系研究科教授	大学院工学系研究科助教授
〃	松 本 高 志	大学院工学系研究科助教授	大学院工学系研究科講師
15. 2. 1	金 井 求	大学院薬学系研究科助教授	大学院薬学系研究科講師
〃	徳 山 英 利	大学院薬学系研究科助教授	大学院薬学系研究科講師
〃	眞 鍋 敬	大学院薬学系研究科助教授	大学院薬学系研究科講師
〃	伊 藤 耕 三	大学院新領域創成科学研究科教授	大学院新領域創成科学研究科助教授
〃	中 畑 雅 行	宇宙線研究所附属神岡宇宙素粒子研究施設 教授	宇宙線研究所附属神岡宇宙素粒子研究施設 助教授
		(転 任)	
15. 1. 16	松 澤 暢	地震研究所附属地震予知研究推進センター 助教授	東北大学大学院理学研究科附属地震・噴火 予知研究観測センター助教授

人 事 異 動 (事 務 官)

発令年月日	氏 名	異動内容 (新官職)	旧 (現) 官職等
15. 1. 20	国 分 和 雄	医学部附属病院管理課 (総務主任) 医学部附属病院管理課総務掛長 (併)	医学部附属病院管理課用度第二掛長
〃	菅 野 耕 二	独立行政法人国立オリンピック記念青少年 総合センター総務部会計課課長補佐	医学部附属病院管理課 (総務主任) 医学部附属病院管理課総務掛長 (併)
15. 1. 31	小 林 政 隆	辞職	医学部・医学系研究科教務掛長
15. 2. 1	坂 口 裕	総務部長	学生部長
〃	小 澤 康 博	医学部・医学系研究科教務掛長	教養学部等教務課大学院第一掛長
〃	中 山 博 司	教養学部等教務課大学院第一掛長	教養学部等教務課教務企画掛主任

・平成15年1月20日付けで、医学部附属病院管理課 (企画主任) 西尾 勉、医学部附属病院管理課用度第二掛長に併任する。

・平成15年2月1日付けで、事務局長梶野 慎一、総務部長事務取扱を免じ、学生部長事務取扱を命ずる。

≡ 広報委員会 ≡

『学内広報』掲載写真の公募

次の要領で、「学内広報」に掲載する写真とその内容の紹介文を、広く本学関係者から募集します。

- | | |
|--|--|
| <p>1. 内 容：東京大学に関するものなら内容は特に問いません。学内点描でも、一般の学内の人達になじみのうすい乗鞍や北海道などの各種施設の状況でも、観測船やスーパーカミオカンデなどの各種設備の概観でも、電子顕微鏡や高速度瞬間写真などによる珍しい現象でも、なんでも結構です。</p> <p>2. 形 式：特に問いません。</p> | <p>3. 説明文：500字程度の写真内容を説明する文章をつけ、所属・氏名を明記してください。</p> <p>4. 締 切：特に設けません。随時。</p> <p>5. 掲 載：原則として、表紙に掲載します。</p> <p>6. 送り先：〒113-8654 文京区本郷7-3-1
東京大学 事務局総務課広報室
03(5841)2031</p> |
|--|--|

投書欄「噴水」にご意見を!!

「学内広報」には、皆様から投書を寄せていただく欄として、「噴水」が設けられています。この欄への投書要領は、次のとおりです。

- 1 本学における教育・研究活動に関する建設的な意見を述べたものであること。
- 2 個人の投稿で所属・氏名を明記したものであること。
- 3 他者への非難・攻撃を含まないものであること。

以上の要件をそなえるものの中から、広報委員会が適当とするものを、適宜、掲載します。

送り先 〒113-8654 文京区本郷7-3-1
東京大学 事務局総務課広報室 03(5841)2031

診療ができない獣医師たち

本学に獣医学科が設置された明治時代には陸軍の重要な輸送手段は馬であり、戦前の獣医学教育の主な目的は馬だった。戦後は軍馬も農耕馬も消え、畜産振興政策とともに教育目的は牛、豚に変わった。次いで高度経済成長のなかで犬や猫が家族の一員になり、人間と同じ高度医療が求められるようになった。また輸出入の増加とともに、日本の畜産に壊滅的な打撃を与える口蹄疫などの伝染病や、狂犬病や牛海綿状脳症のように家畜から人間に伝染する病気の侵入と拡大を防ぐ仕事、輸入畜産食品の安全を確保する公衆衛生の仕事、そして薬や食品の開発を支える基礎医学の研究も獣医師の重要な任務になった。

こうして国民の身体と心の健康に責任を持つようになった獣医学は、国際的にほぼ共通する20数科目の教授と臨床教育の充実とを目指して1978年に医学、歯学に並び6年制教育を実施した。ところが以後20数年間の関係者の努力にも



かかわらず、現在もまだ必要な教員ポストが確保できていない。大学基準協会が定めた最低基準では18名の教授を含む72名。本学の獣医学科は協力講座を含めても約50名。これでも基礎教育はかろうじて実施できる。というより基礎教育だけは充実する努力を続けている。そのしわ寄せは人手と時間がかかる臨床教育に及び、わずかな数の臨床担当教員の努力にもかかわらず、学生は本来履修すべき臨床実習ではなく、教員数が少なくても可能な卒論研究に多くの時間を費やすことになる。

毎年巣立ってゆく知識はあっても診療ができない獣医師たちは、6年制教育実施以前と同じように開業獣医師のもとで見習い修行をし、技術を身につけなくてはならない。全国16の国公立大学獣医学科のなかで、本学に限ってこんな問題があるわけではない。獣医師になりたい若者は、教育の実情が分かっているにもかかわらず獣医学科に入学するしか選択肢はないのである。ノーベル賞受賞に沸き立ち、世界の一流を自認する本学の片隅での教育の現状である。

(大学院農学生命科学研究科 唐木英明)

(淡青評論は、学内の職員の方々にお願いして、個人の立場で自由に意見を述べていただく欄です。)

◇広報室からのお知らせ

平成14年度「学内広報」の発行日及び原稿締切日を、東京大学のホームページに掲載しました。

URL : <http://www.adm.u-tokyo.ac.jp/soumu/soumu/kouhou.htm>

〔訂正〕

「学内広報」No.1254 (2003.1.22) において一部誤りがありましたので、訂正してお詫びします。

14ページ右側9行目、11行目

(誤) 我共 → (正) 私共

この「学内広報」の記事を転載・引用する場合には、事前に広報委員会の了承を得、掲載した刊行物若干部を広報委員会までお送りください。なお、記事についての問い合わせ及び意見の申し入れは、総務課広報室を通じて行ってください。

No. 1255

2003年2月13日

東京大学広報委員会

〒113-8654 東京都文京区本郷7丁目3番1号

東京大学総務課広報室 ☎ (3811) 3393

e-mail kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp

ホームページ <http://www.u-tokyo.ac.jp/index-j.html>